埼玉県舞踊協会
NO.27

埼玉県舞踊協会ニュース

Saitama Dance Association

発行所：埼玉県舞踊協会
発行者：津田 郁子
埼玉県さいたま市浦和区東仲町 1-16 鳥昇ビル 3F
TEL:048-882-7530 FAX:048-882-7549

「平成21年度を迎えて」

埼玉県舞踊協会会長 津田郁子

オバマ大統領の人気で活気が出たとはいえ、経済不況は、世界規模で進行し、日本の現状は、予断を許さない状況と思われます。好景気だからといって、舞踊には特に良いこともありませんでしたが、不況だと色々な面で支障が出るのは、いささか割り切れません。新しい年度、何とか、これらに耐えていくよりないと、覚悟せざるを得ません。

幸いにも埼玉県舞踊協会では、藤井八名誉会長の遺産の一つでもある、人的交流がスムーズで、バレエ・現代舞踊ともに、手を携えて、数々の事業をこなしてきました。組織は、何と言っても、会員の皆様の意向で動くもので、担当なされた役員や、実施に協力いただく会員の方々のお力が無いと進みません。埼玉県舞踊協会では、皆一緒になって、仕事を進めている気風を、今後とも、持ち越してゆきたいものの二つと思います。

今年度も、ダンスセッション、バレエモダンダンスフェスティバル、ステージ1、全国舞踊コンクール、コレオグラファーの目など、埼玉県舞踊協会としての行事が、引き続き、進行しております。長年かけて積み重ねられた基盤のうえに、担当の理事の先生方の新たな創意工夫を加え、よりよい成果をと念じております。

難しい時代に舞踊を通じて、夢や希望をもたらすような活動を、舞踊協会の個々の会員や、理事の方々の一層のお力をお借りし、実現していくことを願っております。

撮影／鹿摩隆司

評 舞踊評論家 うらわまこと

バラエティに富んだ作品が並び楽しい『2009バレエ&モダンダンス早春コンサート』

創立から会長として協会の基礎をつくり、発展させた藤井八名誉会長が昨年暮れに亡くなられましたが、悲しみのなかにそれを乗り越え、みなさんしっかりとダンスに取り組んでいました。

3部に分かれての上演。会員の自由な創作、そして招待作品、最後に一つのテーマのもとでの共同制作というプログラムです。

第1部。まず由井カナコさんの『パ・ド・サンク』。ヨハン・シュトラウスの「こうもり」による5人の女性の踊り。カラフルで品のある衣裳、松本直子さんを忠実に、それぞれしっかりした技術で、ちょっとしたコミカルな彩りを添えた、明るく、楽しい作品。次は新野正代さんの『安宅関』。山本邦山さんの音楽によって、弁慶の義経にたいする忠義、それにほだされる富樫の3人の心理の葛藤を、4人のコロスを船として使ったりして、舞踊劇風に描き出しました。最後は野呂修平さんの『カラー・ヴァリエーション』。音楽アダン。色違いの衣裳の6人の女性、そして野呂さんもピエロで白として参加し、さまざまな組み合わせで踊る女性たちに絡みます。似ているようで趣の異なる2つのクラシックの間に日本的な作品が挟まり、なかなか面白く見ました。

招待作品は、堀登さんの代表作ともいえる『5 vs 5』。白黒5人づつのパンツ、ダンスブーツの女性が、舞台の両サイドに置かれた椅子に腰掛けているところから始まり、さまざまな組み合わせで、センターで対決したり、椅子の取り合いをしたりします。タンゴのリズムでシャープな動き、選抜されたダンサーたちはしっかり踊りました。この「5」は人数と共に「碁の意味もあるのでしょう。

最後は『DNAさいたま動物の謝肉祭』。サン・サーンスの音楽に関係なく、8人の振付者が動物のイメージに基づいて舞台化したもの。『カマキリ』（文月玲さん）。最初に白髪、ロイド眼鏡、ちょび髭、白衣の博士風の若松美黄さんが登場、呪文を唱えるような動きで、サイケ調のレインボウカマキリを出現させます。雌と交尾して食べられてしまうが、生まれてくる子はまたレインボウ。はしゃぐサイケな子ども達で、なんとも奇妙な味でした。山口弓貴子さんは『飛べない鳥』。厳しい自然に立ち向かう渡り鳥の群れ。そこに若い雄鳥が力を見せる。一方老いた鳥は必死に自分の位置を保とうと努力、こういったドラマをはらみながら群れは進んでいく。なかなかの佳品です。『月落ちて、楽園は漆黒の闇なり』は青木りえさん。最初に蛍光の眼鏡をかけた小動物の群れ、もぐらか。眼鏡をとることによって暗闇を現したのでしょう。手探りから、慌てふためき、一点をめざすという意味は表現されていました。山崎麻矢さんの『家猫協騒曲』。けったいで楽しい作品。スタンダードジャズなどによって、個性的な派手猫3匹と銀鼠の大騒動、豪華な衣裳を脱いで頑張り、最後に丸めの猫の怪我の功名的な捕獲で大団円。原島マヤさんは『変化』。多分ヘンゲと読むのでしょう。踊り達者な狸たちが形を変えて静かに深く襲ってくるという雰囲気はありますが、原島さんにはもっと感動的な舞台を期待したいところ。田中ひとみさんの『宇宙カメ参上』もとぼけた味。火星でしっかり特訓の亀軍団が銀河鉄道で地球に帰還。しかし地球は住みにくい。しょぼくれ親子亀がそのシンボルでしょうか。『クローン計画の誤算』（谷乃梨絵さん）も奇想。1匹の羊と多数の牛、何かの事情で交わるが、牛が体は羊になるが、角は変わらない、失敗。動きは8ビートのユニゾンなど迫力はあります。しかし解説にある狂牛病の肉骨粉を食べた、を表現するのは難しいこと。最後は吉田久木子さん作、関口淳子さん振付の『人』。シモテの関口さんとカミテの3人の女性。

いずれに腰掛けた関口さんの動きは素晴らしいし、それに対する3人もよく動きましたが、動物の謝肉祭の最後は「人」、という意味は今一つ伝わりませんでした。

途中にも若松博士が随時登場して雰囲気を盛り上げ、全体として、超個性的な作品が幅広く集まった不思議な魅力の共同作品となっていました。

『パ・ド・サンク』
『安宅関』
『カラー・ヴァリエーション』

『5 vs 5』

「5 vs 5」出演者より――

■五十嵐理絵

今回、初めて堀登先生振付の作品に参加させて頂きました。

「5 vs 5」という題名を聞き、どのような作品なのかとても楽しみに初日のリハーサルを迎えました。初めて振付を頂いたとき、クラシックバレエの枠にとらわれない独特な動きをみて、何度も何度も動きを繰り返すことによって、振付を体に入れることを今でも鮮明に覚えています。

「5 vs 5」。白5人、黒5人にわかれ対立して踊る、白のパートになった私は二つの動きを明確に、白と黒の対比をはっきりと見えるように踊りたいと心掛けました。日を重ねるにつれ作品に引き込まれ、踊ることがたまらなく楽しかったです。

このような機会を与えてくださった先生方、毎回のリハーサルにお付き合いくださったミストレスの先生、そして堀先生、本当にありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも踊る楽しさを感じながら、日々努力をしていきたいと思います。

■大野小百合

今回、バレエ&モダンダンス早春コンサートで堀登先生作品「5 vs 5」に出演させて頂きました。

どんな作品なのか、何もわからないまま、初めてのリハーサルを迎え、想像もしていなかった振り・動きに戸惑ったことを覚えています。堀先生が、丁寧に一つ一つの動きを教えてくださったので、その後リハーサルを重ねる度に少しずつ身体に動きが入り、楽しくリハーサルしていくことができました。きっと、出演していた全員が同じような気持ちだったのだと思います。各スタジオから始めて出会う10人でしたが、自然と仲良くなり気がつけば作品を少しでも理解しようと団結していました。

短いリハーサル時間の中、細かく指導してくださった堀登先生、忙しい中リハーサルにお付き合い頂いたミストレスの先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。とても素晴らしい作品に出演させて頂き、このような場を設けてくださった埼玉県舞踊協会の先生方に感謝申し上げます。

■小崎美樹

私たちは、この作品がどういう物語になっているのか、どういう意味をもつのか、詳しいことは何も知りません。ですが、自分たちで考えながら一つの作品を完成させていく、とても貴重な時間になりました。作品に自分なりの物語をつけてみたり、それに合わせた動きや表現にしてみたり…。堀先生からの「かっこよく！」という言葉の意味をダンサーとしてどう表現できるか、と色々と考えました。本番は、10人全員のそんな気持ちを出し合えたのではないかな、と思います。

堀先生をはじめ、たくさんの応援してくださった先生方に心から感謝したいと思います。ありがとうございました。

■末冨真由

自分にとっては今回のステップや音のとり方など全てがとても新鮮で興味深く、バックホーンの異なる仲間たちと一丸となって作品に楽しく取り組むことができました。

辛抱強く指導してくださった堀先生、支えてくださった埼玉県舞踊協会の先生方、足を運んでくださったお客様、共に戦った共演者の皆様、そして「5 vs 5」というこの素晴らしい作品に、心より感謝申し上げます。

■高岡優貴

今回「5 vs 5」作品に参加させていただき、自分の舞台活動にとって、とても貴重な経験をすることができました。初めは慣れない動きに戸惑いましたが、実際に動いて見せてくださる堀先生の姿を元に、イメージを膨らませ、本番が終わる瞬間までそのイメージを体現することに集中できました。このようなダンスと出会えたことに感謝し、得られた経験をしっかりと今後に繋げていきたいと思います。

■正木聖子

十人が異なるスタジオから集まった今回の作品は、少ない練習回数のなか堀先生の細部に亘る指導の下徐々に団結していき、皆でつくりあげていく過程がとても楽しかったです。本番直前のリハーサルで怪我をするというアクシデントはあったものの、あまり外部公演に出たことのなかった私にとってとても良い経験と沢山の刺激を受けることができました。今でも参加して良かったと思います。

お力添えいただいた先生方に感謝いたします。ありがとうございました。

埼玉県民芸術文化祭 2009 参加

第42回 埼玉全国舞踊コンクール 2009

《会場》さいたま市文化センター 大ホール・小ホール（入場無料）
《日時》2009年7月22日(水)～29日(水)
《主催》埼玉県舞踊協会 《共催》(財) さいたま市文化振興事業団

期日	大ホール	小ホール
7／22(水)	クラシック2部 予選	モダン1部 予選
23(木)	クラシック2部 予選	クラシック1部 予選
24(金)	クラシックジュニア部 予選	モダン2部 予選
25(土)	クラシックジュニア部 予選	モダン2部 決選
26(日)	クラシック2部 決選	モダンジュニア部 予選
28(火)	クラシックジュニア部 決選	モダンジュニア部 決選
29(水)	クラシック1部 決選	モダン1部 決選
	第41回 1部入賞作品披露	
	表彰式	

コンクールへの参加はホームページからのみ受付いたします
【埼玉舞踊協会ホームページ】
http://www.saitamaken-buyoukyokai.jp

花をついばむ鳥

松崎すみ子

二月初旬のある朝、ふとベランダを見ると、花をくわえた「ひよ鳥」とピッタリと目が合った。アッーと声を出すとスーッと飛んで行ってしまった。

実は三日前、円状に咲いていたパンジーの頭が禿げた様に薄くなっており、可愛らしく咲き誇っていたネメシアの数も減っている。水やりが悪かったのか？日は良く当っているのに…不思議に思っていると昨日の朝。ネメシアは茎だけが残り、パンジーも花を数えられる程少なくなっている。どうして？どうして？まさか鳥とは…

「花をついばむ鳥」…一寸良いタイトルとは思うけど、実際食べてしまわれるとは思いもしなかった。後日花屋に愚痴めくと、冬は餌が少ないからねぇ、特に二階のベランダは食べやすいし、と、まるで鳥の味方の様だ。

まぁ私は自然保護をしたらしい。とあきらめた。（今二月末パンジーは新しい花が咲いて来た。）何年か前の埼玉舞踊協会の新年会。YKさんの「家に来る雀の話」から、我も我もの鳥談議。公先生も「家のベランダにもね、あー今年はとり年でもないのに鳥の事ばっかり、ダンスの話は出なかったけど、まぁ今年も頑張りましょう！」と閉会となった事など想い出す。

公先生！やすらかに。…鳥になって風になって私達を見守って下さい。

協会員催し物ご案内 2009年4月～2009年9月

窪内絹子モダンバレエ研究所 生徒発表会
◎4／19(日) 17:00 川口リリアメインホール
☎048(255)6447 窪内絹子

津田・若松モダンバレエ研究所 第55回生徒発表会
◎4／26(日) 13:00 埼玉会館大ホール
☎048(853)9410 津田郁子

第26回大岩静江バレエスタジオ発表会
◎6／7(日) 16:00 川口リリアメインホール
☎048(283)9587 大岩静江

中村友美・上田仁美モダンバレエ 第36回発表会
◎6／21(日) 13:00 春日部市民文化会館大ホール
☎048(734)5004 中村友美

第11回 堀部明里バレエ研究所発表会
◎6／28(日) 15:00 埼玉会館大ホール
☎048(666)2203 堀部明里

佐々木祐子バレエスタジオ第38回発表会
◎6／28(日) 16:00 坂戸市文化会館大ホール
☎048(474)5134 佐々木祐子

第51回フジサトバレエスタジオ発表会
◎7／19(日) 15:00 練馬文化センター大ホール
☎03(3995)2218 藤里照子

アキコ・カンダモダンダンス公演《有料》
◎8／6(木) 19:00
7(金) 15:00・19:00
8(土) 15:00 青山円形劇場
☎048(645)6551 アキコカンダ事務所

文月玲バレエスタジオ第11回発表会
◎9／6(日) 16:00 熊谷会館
☎048(527)5445 文月 玲

(社)日本バレエ協会 関東支部 埼玉ブロック結成30周年記念 第22回バレエファンタジー「眠れる森の美女」全幕
◎9／13(日) 16:00 《有料》川口リリアメインホール
☎048(886)6420 河上正子

山本教子バレエスタジオ第17回発表会
◎9／27(日) 16:00 《有料》さいたま市文化センター 大ホール
☎048(852)3517 山本教子

藤井公先生を偲ぶ…

『藤井公先生を偲ぶ会では、参列していただいた方に公先生の生涯を簡単にまとめた小冊子「藤井公先生の風呂敷包み」を制作・配布。幼少の頃から、踊りとの出逢い、舞踊家、指導者としての思いなどを絵本風にまとめた内容です。風呂敷包みがトレードマークだった公先生を偲んで、藤井利子先生が名付けました。

『父親にしょっちゅう叱られているガキ大将だった…』

昭和3年 現在の春日部に生まれる。父、藤井周助は豊野村の村長であった。母はよし。公先生（正式には公（たゞし））は存外にガキ大将で、父に、庭の木に縄で縛られたり、蔵の中に閉じこめられたりしていた。幼少の頃は、川船の上から、父に川へ投げ込まれながら泳ぎを覚えたという。

初めての男子出産ということで大事にされ、子守や姉（ねえ）やが付けられていた。

（小冊子より）

石田種生

公さんとは不思議にウマが合い、随分前から親しくしていただいていました。穏和なお人柄で、バレエ会場などでお会いする度にヤアヤアと声をかけ四方山話をしていました。いつもお元気そうで、まさか脳梗塞で逝かれたとは、―今でも信じられません。奥様もさぞかし辛い思いされたこととお察しいたします。本当に残念です。

埼玉県舞踊協会主催の舞踊コンクールの審査委員に選んでくださったのも公さんでしたし、九十一年の五月に上演した「じょんがら」の振付を依頼してくださったのも、誰でもない公さんでした。この作品を頼まれたときは、交通事故で複雑骨折した左足がまだ痛んでいるときで、毎週の土・日曜日に松葉杖をつきながら、赤羽のスタジオに出掛け、八人の女性を相手に振り付けました。

公さんはその時「どんな曲でもいいから…」と言われたのですが、私は何故か青森民謡の「じょんがら」を思い立ち、CDを捜し出して振付を開始したわけです。しかし、どうしても民族舞踊的なステップが入ってくるので、まだ舞台経験もそれほどないダンサーたちは、それを消化するのに大変苦労しました。だけど私は、どうしてもやらせようと怒鳴ったりすかしたりしながら我（が）を通しました。それを繰り返しているうちに、氷のようだった彼女たちは次第に溶けてきて、方言のような味がでてきました。「じょんがら」は五月九日～十日、俳優座で二回公演。舞台稽古を観てくれた公さんが、楽屋でニッコリして「いいよ、有難う」といって握手をしてくれました。

さて、本番。身内の者や口うるさい私の友人たちがほとんど観に来てくれました。何しろ私が交通事故に遭ってからの最初の仕事だったので、どんな作品を創るか心配だったのでしょう。ダンサーたちもよく踊ってくれました。私も内心ドキドキしていました。

舞台が終わって帰途、近くのレストランに寄って、私の取り巻き連中と食事をしましたけれども、私はどんなダメが出るかヒヤヒヤしていましたら、乾杯のあと辛口のテレビ作家と演出家が口を揃えて「おめでとう、これで種生も復活した」と言ったので、私は思わず「ほんとに!」と疑い半分申しましたら、「一杯の匂いがした。お前が怪我する前の作品よりも、よかったぞ」。女房は涙ぐんでいました。私は楽屋で言ってくれた公さんの言葉と、その場での批評で、振付を続ける自信がつきました。これもそれも、公さんが私に振付をやらせてくれたおかげでありました。

私を交通事故から立ち直らせてくれたのは、他の誰ともない藤井公さんであります。私はそのことを一生忘れることはありません。彼は私の恩人であります。

今になっては遅いけれども、公さんに心からお礼を申しあげたい心境です。藤井公さん有難う、ゆっくりお休みください。

うらわまこと

藤井公さんの思い出は両手に抱えきれないほどあります。そのなかで、ここに掲げてあるご遺影から思い出されるものをいくつかお話ししたいと思います。

まず、昨年一月最後の作品となった『ダンス・人間模様』。舞台上手で椅子に腰掛けて、尚美さん、お孫さんはじめお弟子さんたちの踊りをご覧になっていた姿、その時公さんの脳裏に去来していたものは何だったのでしょうか。

つぎに、昨年六月、たぶん生前最後の受賞でしょう、松山バレエ団の財団顕彰の授賞式、その後のパーティーで、お疲れで椅子に腰掛けておられた公さんを高円宮妃殿下がやさしくいたわりながら話しかけられていた光景。これは、公さんは多くの賞を受けておられますが、利子さんも同等の功績がありながらあまりお受けになっていない。利子さんにも是非賞を。実はこちらが主で、公さんはツマのツマだったとその時申しあげました。それを公さんが嬉しそうに聞いておられたということ。そして、私ごと、個人的な話しになりますが、昨年11月、本間祥公さんの会で、舞台にご一緒できなかったのは、最大の心残り。しかし、体調の悪いなか、名作『ヒマラヤの孤』の21世紀版の上演にご注力いただけたことは、不幸中の幸いであったこと。

最後に、数あるお名作のなかで私が最も公さんらしい、大好きな作品は『野蓑先生』。その印象的な初演（94年俳優座）と、是非もう一度と希望していたものが、東京芸術劇場での作品展「観覧車」の最後に上演され、ご家族全部で登場されたこと。これもいまだに強く心に残っています。

（偲ぶ会にて想う）

私の心の中に生きている藤井公

桜井勤

藤井公さんは2008年12月20日、脳梗塞で80歳の生涯を閉じられた。前年まで現代舞踊協会副会長を勤め、埼玉県舞踊協会名誉会長を勤められた。

私が藤井公・利子の作品を始めて見たのは1961年10月27日、都市センターホールの「天国の異邦人」で、その翌62年東京創作舞踊団を結成、「りんごの木」（11月28日、日本青年館）をみせた。共に人間性の回復と自由を求める闘いを描いたが、「りんごの木」では、さらに祈りを加えた舞踊詩劇であった。それから数えると50年近い歳月がたつが、お2人の舞踊を創る態度は一貫している。当時石井漠の作品や江口隆哉を見ていた者としては、モダン・ダンスの原形をみる思いがした。

藤井公・利子は、ローシーの教えていた帝国劇場で石井漠・高田雅夫・せい子と共に学び舞台出演していた小森敏の門下で、小森敏没後も研究所を維持して来た夫妻である。

その頃の作品は残念ながら見ていない。東京創作舞踊団第3回公演（1965年11月5日、日本青年館）「レクイエム・彼岸の対話」で小森夫妻に捧げる鎮魂歌をみて、師への想いと舞踊にかける藤井夫妻の情熱を強く感じられた。

その後、数多くの作品を創り、多くの門下を生み出した。埼玉県舞踊協会を創り、舞踊コンクール（モダン・ダンスとバレエ）を発足させ、そこからも多くの優秀なダンサーを生み出した功績は極めて大きい。

2006年6月5日、東京芸術劇場中ホールで行われた「藤井公・利子の現在〝観覧車〟は大勢の門下が総出演で創った作品で、最後に藤井公が出て来て、得意の踊りをみせた。

藤井夫妻の一生を締めくくるような意義深い作品であった。

藤井公・利子の数多くの作品から何を選ぶかは、見て来た方それぞれの自由である。私は、最初に書いたもの他、「癒えぬ川（70）、「ヒマラヤの孤（80）、「沙漠のランボー」（84）、「北斎・今」（89）などが、特に印象深い。

数多くの賞を受け、特に埼玉県舞踊協会会長として県下の舞踊活動を活発にし、埼玉国際コンクールを催し、諸外国との交流をはかり、また埼玉文化交流使節団として、タイ、中国、オーストラリア等、海外公演を果たした功績は大きい。

最後まで、舞踊の発展に力を尽くした藤井公は、今も私の中に生き続けている。

堀切敏子

公先生のこと、本当に残念でなりませんが、ご家族皆様の温かい心に支えられて、お幸せな人生であったことと思います。

そして何よりたくさんの舞踊作品を生み出し、さらに大勢の優秀な舞踊作家を育てられ、それは何よりも素晴らしいことと存じます。人を育てるということの大切さを私も十分に感じておりました。それは、私のような者にもいつも声をかけてくださって、いろいろとお話ししてくださったこと本当に有り難く、忘れられない時間です。私の二十代にお会いして、考えますと四十年以上が過ぎました。

公先生の舞踊に対する生き方の見事さは、内にとどまらず、常に世の中を見続けてこられたことと逐行して作品造りがあったことをまず第一に感じておりました。

そのことは、私の内にもしっかりと根付いていると思っております。

山野博大

藤井公先生の訃報に接し、私はとっさに大きな山の彼方に沈む荘厳な夕日を想いました。思えば、ずいぶん長い間にわたり、藤井先生ならではの独創的な舞踊作品を見せていただき、舞踊の楽しさ、おもしろさ、厳しさを教えていただきました。それら作品の数々と、それを踊る先生の育てたダンサーたちによって形作られた巨大な藤井山脈が私の目には見えています。その彼方に沈んだ夕陽は、今なお鮮やかな光芒を空いっぱいに放っているのです。

藤井先生の残された舞踊は、日本の洋舞の現在の姿を定める上での巨大な指針となっています。そのすべては時代を共にした者たちの心に、そしてまた次の時代を創るべき若い人たちの心に、くっきりと刻印され、日本の洋舞の将来へと受け継がれていくでしょう。

藤井先生は、楽しみながら、そして時に苦しみもがきながら、数々の舞踊を創ってこられました。そのご苦労をつい忘れがちの私たちは、まだまだ次の作品を見せてもらいたいと思っておりました。しかし舞踊の神様は、そろそろゆっくりお休みになるようにとお考えになったのでしょう。その決定には従うしかありません。これからは、天の彼方から、日本の舞踊の行く末を見守っていただきたいと思います。藤井先生は、舞踊を見ることもとてもお好きでしたから、いつものように劇場のはじっこの方の座席に、こっそりとお姿を見せてくださるかもしれません。

本当に長い間、いろいろな舞踊の素晴らしさを教えていただき、ありがとうございました。

心よりご冥福を祈ります。

2009.2.20 浦和ロイヤルパインズホテル 偲ぶ会にて　撮影／飯島 坦

彩の国さいたま芸術劇場での競演　バレエ・モダンダンスの会
平成21年度
第36回ステージⅠ
舞踊県さいたまを目指した創造性豊かでフレッシュな舞台空間にご期待ください。

次代のすぐれた舞踊家育成を目指した研究発表
参加者募集!!
35作品前後、3分～7分位までの作品
会　場／彩の国さいたま芸術劇場小ホール
月　日／2009年9月20日（日）予定
入場料／1,995円
お問合せ／048-882-7530（協会事務所）

第42回 バレエ・モダンダンス フェスティバル

川口リリアメインホール　Aプログラム 3月7日（土）・Bプログラム3月8日（日）

Aプロ　3月7日（土）　Bプロ　3月8日（日）　撮影／スタッフ・テス㈱

「公先生とフェスティバル」

チーフプロデューサー　中村友美

埼玉県舞踊協会創立の年から開催され歩み続けたバレエ・モダンダンスフェスティバル№42が沢山の方々のご協力で無事盛会に終わりました。いつの頃からか「伸びゆくさいたまの子どもたちによる」とサブタイトルが付きました。

公先生は次代の舞踊界を荷なう子供達の未来を期待し共に舞台に立ち踊る喜びを分ち合える場を協会員とその生徒達にフェスティバルで教えて下さいました。協会創立初期からの会員も中期からの会員も近年からの会員もフェスティバルと共に歩み今があると思います。

公先生はいつも下手でも何でもやらなければダメ・創らなければダメ・活動する事に意義があると諭して下さいました。その言葉を信じてとにかく続けて来たことに幸福を感じています。瞳を輝かせて照明下見・本番にかけつけてくれる子供達を見る度に制作を担当させて頂けることに感謝しています。

2010年フェスティバル№43も皆様のお力で賑やかに開催出来ます事を信じて…。

公先生どうか天国から見守って下さい。

評

副会長　藤井利子

第四十二回を迎えた恒例のバレエ・モダンダンスフェスティバル（三月七日、八日）が終了した。今回は一日間、観客の一人としてじっくり拝見する役を賜わり、幸せな時を過ごさせていただいた。第一回から参加の小林和加枝氏を始め、参加指導者が、二十年、三十年と継続して参加の方も多く、感慨深い。

子供達を伸ばす事、先生自身の研究心を高める場として、又多くの観客に観ていただける普及としてもその成果は大きい。初参加歓迎の場でもあるので今後は一層楽しみが増すかもしれない。

各団体がそれぞれ作品に工夫を凝らしていて創意を感じる楽しさがあった。そして一生懸命踊る子供達に胸が熱くなる。未来に向かって羽ばたく子供達のパワーに観客の拍手も暖たかかった。コンクール上位入賞作品の披露も素晴らしく、観客も息を呑む感があった。打ち上げ席での先生方も、来年は又頑張ろう！という気持ちが見えて、顔が明るく輝いていたように思う。公演に携わった関係者の方々、本当にお疲れ様でした。今年も大成功でした。

厚く御礼申し上げます。

第35回ステージⅠ

2008年9月27日
彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

ゲストお二人からのメッセージ

海保文江

この度は、思いがけず特別出演としてステージⅠに参加をさせて頂きありがとうございました。私にとってとても大切な「雲見」という作品を、育てて下さった先生方やお客様に観て頂けた事はこの上ない喜びです。若さとパワー溢れる自由な作品を発表できるこの素敵な舞台に出会えた事に心より感謝申し上げます。

ステージⅠ 撮影／池上直哉

山本みさ

今回ステージⅠの舞台に久しぶりに出演させていただきありがとうございました。

モダンの方が多い中、私の踊りをどのように受け止めていただけるのか不安と緊張でむかえた本番でしたが、先生方やスタッフの皆様のお心遣い、やさしさに支えられとても楽しく舞台を終える事が出来ました。

他の方々の作品に刺激を受け、勉強もさせて頂き、とても充実した一日となりました。

●舞踊協会からのお知らせ

埼玉県舞踊協会2009年総会は、6月19日（金）

詳しくは後日、別紙にてお知らせいたします。

●協会員報告

大谷静江氏　埼玉県文化ともしび賞

受賞お祝い申しあげます

◎編集後記

「藤井公先生を偲ぶ…」では利子先生宛にお書き下さったお手紙より、公先生への思い出を掲載させていただきました。先生の育ててくださったこの協会を大切に、次の世代に続けていただきたいと考えております。

広報部　笠原千珂子
山本教子